

AI's Army

ゴアの軍隊

Nature Vol.446 (723-724) / 12 April 2007



地球温暖化の危機を訴えるアル・ゴア前米副大統領のメッセージを広めるため、多くの一般市民が行動を開始している。Amanda Haag 記者がゴアの「歩兵」たちに会った。

米国コロラド州ルーイービルにあるモナク高校の放課後。廊下は静けさに包まれている。生物室では、数人の科学教師たちがいつもは生徒たちが使っている机に座っている。Mark McCaffreyは、彼らに地球温暖化の教え方を説明し、アポロ17号の宇宙飛行士が撮影した地球の写真をパワーポイントで示した。象徴的な「青いビー玉」の写真。「人類の歴史のすべては、宇宙に浮かぶこの壊れやすい小さな惑星、地球の上で起きたのだ」。彼はほとんど厳かといってもよい口調で話した。

この文句に聞き覚えがあったとしたら、それはアル・ゴア前副大統領の講演に似ているからだ。2006年9月以来、ゴアとそのスタッフは、ゴアの地元であるテネシー州ナッシュビルで、こうしたプレゼンテーションを行うボランティアを訓練するための2日半の講習を行っている。講習を受けたボランティアは約1000人に達しており、McCaffreyもその1人だ。講習の目的は、ゴアが地球温暖化の現状をレポートしてアカデミー賞

長編ドキュメンタリー映画賞を受賞した映画『不都合な真実』のメッセージを広めることにある。受講者たちは、ゴアが用意した科学的内容をまとめた300枚以上のスライドを使って、二酸化炭素濃度の上昇や、ハリケーンの強度の物理学や、海氷の後退の仕組みなどの重要な話題を説明する方法を学習する。

ボランティアたちはその後、地元に戻り、高校、教会、市議会、会社、高齢者保護施設などで、できるだけ多くの人たちにそれを伝える。McCaffreyは、普段はコロラド大学環境科学共同研究所（同州ポールダー）で科学教育や地域貢献活動に従事している。彼がゴアの講習に参加した動機の一つに、地球温暖化に懐疑的な人たちに反論できるように、気候学の理解を深めることがあったという。「懐疑的な人たちによって、私の話は行き詰ってしまうことがある。私はうろたえ、どう反応してよいかわからなくなる。彼らは気候学以外の分野の科学者の場合があり、不確かさを際立たせる方法や、

人々の心に疑いを植えつける方法を十分によく知っている」と彼は話す。

ゴアは講習を受けた人たちを「騎兵隊」とよんでいるが、彼らがその役割に対して抱いている情熱を考えると、「宣教師」や「伝道師」とよぶほうがふさわしいかもしれない。アーカンソー州ハケットから来たあるボランティアは、電子メールの末尾に「気候変動の使者、Robert McAfee」と署名している。テキサス州シュガーランドから来たGary Dunhamはいわゆる無党派層の1人だが、映画『不都合な真実』を見ている間に宗教的改心に近い経験をしたという。「私がこれを見に行ったのは、映画そのものに興味があったからにすぎず、地球が温暖化しているという話はまったく信じていなかった」と彼は当時を振り返る。「映画が始まってから15分もしないうちに、私は完全に立場を変えていた。政治演説に突き動かされて何かをしなければと思ったのは、ジョン・F・ケネディの時代以来、初めてだった」。テキサス州ケラーのボランティ

ア Reggie Allen の両親は、日曜日の礼拝後によく公民権運動の行進に参加していたという。Allen は今、地球温暖化に関する「真実」を広めることは、公民権運動に匹敵する使命であると思っている。

数千人の応募者の中から選ばれたボランティアには、中学生、牧師、市長、原子力エンジニア、保守主義者、スーパー「ウォルマート」の従業員、ミス・ロードアイランド州、女優のキャメロン・ディアスもいる。職業は違うが、彼らは皆、同じ使命感をもっている。それは、人間の活動が地球の気候を変えつつあることと、それを阻止するためにできることがひとりひとりにあることを、友人、家族、隣人に伝えることだ。

ナッシュビルでの講習の1日目はゴア自身が90%を指揮し、科学的内容のスライドを1枚ずつボランティアに説明していく。彼は質問も受けつける。講習には常に1人の科学者が同席していて、ゴアの回答を補助している。ゴアのチームには、ワシントンDCにある気候研究所の気候変動主任研究員であり、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の長年の貢献者である Michael MacCracken、ペンシルベニア州立大学の雪氷学者

Richard Alleyら4人の科学者がいて、交替で参加している。

2日目、受講者たちは小さいグループに分かれてプレゼンテーションの練習をする。ゴアのスタッフの1人で全米野生生物連盟 (NWF) の教育担当専務理事である Carey Stanton は、「彼らの話は力強い。それは彼らが心の底から話しているからだ。彼らが科学的内容を真に理解したとき、その話はさらに説得力のあるものになる」と話す。

受講者たちは、聴衆に合わせて話を組み立てるように奨励されているが、ゴアのプレゼンテーションの骨組みは守るよういわれている。例えば、宇宙から地球を見た感銘深い映像は、映画では最後に使われているが、プレゼンテーションもその映像で締めくくるといわれている。McCaffrey のプレゼンテーションではスライドの3分の1を使っている。

教育現場に波紋も

McCaffrey がゴアのプレゼンテーションから脱線するのは、若者にメッセージを伝えるのに効果的な例を挙げるためである。「多くの例を挙げるだけでは、聴衆の左の耳から入って右の耳から抜けてしまう。少なくとも、我が家のティーンエイジャーに対してはそうだった」と、彼は高校教師らに説明する。McCaffrey はまた、学校で二酸化炭素排出ゼロプログラムを始めるなど、生徒たちが率先してできる取り組みがあることにも言及する。

ゴアの運動は、まるで新興宗教のように支持者を集めた。2006年12月には、左派の圧力団体であるムーブオン・オルグが、このドキュメンタリーを米国全土で同じ日の同じ時間に放送するように運動を行った。講習はオーストラリアや英国でも行われた。今年の4月上旬には、同月14日に「気候変動全国行動デー」を計画した市民運動団体ステップ・イット・アップのウェブサイトにゴアの支持者たちが押し寄せて、あやうくサイトをシャットダウンさせてしまうところだった。

しかし、運動はあらゆる方面から温かく歓迎されたわけではない。2006年11月、この映画のプロデューサーは高校にDVDを大量配布することを計画し、全米科学教師協会に5万枚の無料DVDを寄贈しようとした。けれども協会はしり込みした。会員から求められたわけでもない教材を協会が押しつけるわけにはいかないし、そんなことをすれば協会が会員にこの映画を推薦したものとみなされ、ほかの「特別利益団体」からも教材の配布を依頼されることになりかねない、というのがその理由だった。協会はそのウェブサイトに映画へのリンクを張って、DVDを欲しい人はだれでも手に入れられるようにすると申し出たものの、映画のプロデューサーの1人である Laurie David は、DVDの配布に乗り気でない協会を公然と批判した。

今年1月、ワシントン州シアトルに近いフェデラルウェイ地区の教育委員会は、『不都合な真実』を生徒に見せることを一時的に禁止することを決め、全米ニュースとなった。ある親が、この映画は地球温暖化問題の一方の側の見方しか伝えていないと苦情をいったからだった。地区の方針も、「偏り」のある教材を見せることにした教師は「信頼できる妥当な反対意見」も提示し、校長と教育長の許可を得なければならぬと定めていた。上映の一時停止はその後、解除された。

コロラド州ボルダーのようなやや左寄りの学区でさえ、地球温暖化についてのどのように (そしてどの程度) 教えるべきかについては意見の相違が根強くある。ボルダーバリー学区の一部の教師は、教室で『不都合な真実』を見せ、生徒の親やほかの教師から後で抗議された。ボルダーバリー学区で科学カリキュラムの調整をしている Kristin Donley は、「教師たちには政治的な支持や支援がないため、議論のある問題は敬遠しがちだ」と話す。彼女は自身のクラスのために、気候変動に関する単元を作ろうとしている。Donleyによると、炭素循環



アカデミー賞を受賞したアル・ゴアの映画によって、米国では地球温暖化が熱い議論をよんでいる。

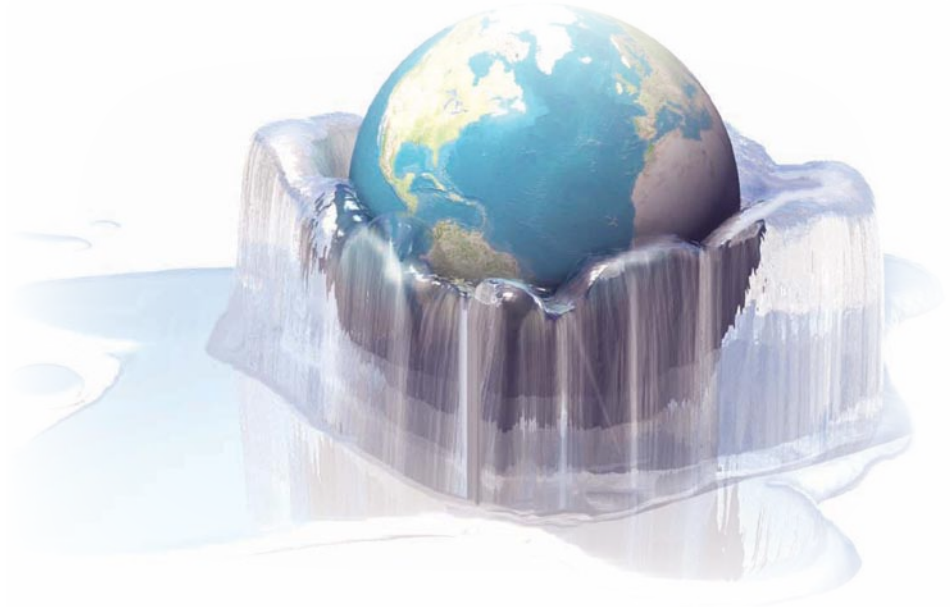
や温室効果など、いくつかの基本的な概念は物理学の通常のカリキュラムで教えることになっている。しかし、このカリキュラムは自由度が大きく、地球温暖化の話題をもち出すか否かは教師が選ぶことができるのだ。

若者の危機感

McCaffreyがモナク高校にやってきたのは、ボールダーバリー学区の教師たちが授業で気候変動の問題を扱うことに関心をもってると聞きつけたからだった。最後のスライドを見せ終えた彼は、現代の若者たちとの触れ合いを大切にしてくれるよう、教師たちに頼んだ。「私たちの前には大きな問題が立ちはだかっている。あなたたち教育者は、気候の基礎とそれを取り巻く状況を若者たちに伝えるという、特別に重要な使命を帯びている」と彼は話した。

McCaffreyの話が終わったあと、1人の教師が、映画のタイトルに「真実」という言葉が使われていることを問題にした。「科学は仮説のみを扱うのではないのか。これをどう生徒に説明すればよいのか」と彼は尋ねた。別の教師は、自分の生徒には映画に出てくる「同分野の専門家が査読を行う科学研究」という言葉の意味がわからなかったといい、「米国民の大半はこの言葉を理解できないのではないのか」と指摘した。McCaffreyは、査読の意味を正しく理解させるには、ロールプレイング形式で説明するとわかりやすいだろうと答えた。

すべてのティーンエイジャーが気候変動問題に強い関心をもってはいるわけではないが、ボールダーに住む14歳のAlex Buddは、気候変動問題について行動を起こすことは道徳的に必須のことだと考えている。Buddは、テネシー州に住む叔母から講習について聞いてゴアの講習を受け、最年少のボランティアとなった。BuddとMcCaffreyは、コロラド州のもう1人のボランティア、Steve Wiltonとともに、ボールダー地域でプレゼンテー



14歳のAlex Buddは、最年少のボランティアとしてアル・ゴアの地球温暖化のメッセージを広めている。

ションを行った。Buddは「私たちは地球を破壊しています」と淡々と話した。「これは政治や経済の問題ではありません。道徳的に間違っているのです」。彼は、学校での昼食時間や、「少しでも話すことができれば、あらゆる機会に」、ゴアの講習で学んだことを話している。「だれにでもできる小さな行動で、大きな変化を起こすことができます」と彼はいい、小型電球型蛍光灯の使用や家の断熱性の改善などを例に挙げた。

「少なくとも今、何が起きているのかを人々に知ってもらいたいというのが、僕の願いなんです」とBuddは話す。「それは簡単なことではないでしょう。だからこそ、それは『不都合な真実』とよばれているのです。それは真実であっても、人々が予定していなかったことであるからです」。

Amanda Haag はコロラド州在住のサイエンスライター。